

部長を囲む会

皆様、本日はお忙しい中、お集まり下さいまして有難うございます。コロナ禍の影響で4年ぶりの開催です。有意義な意見交換の2時間となりますよう、ご協力よろしくお願い致します。

参加者：こども部；鷺沼部長、次長、課長他 計5名
福祉部；菊田部長、次長、課長他 計5名
親の会；会長、副会長、理事、発言者、一路会・いちばん星支援者 計26名
配布資料：福祉部より…令和5年度 福祉部 障がい児者関連予算
こども部より…令和5年度 こども部 知的障がい児関連予算
親の会より…次第と発言要旨、ソナエプロジェクト、自治体別通所交通費助成状況

1. 福祉部より、施策（知的障害関係）についての説明（約15分）

予算 資料にある5つの事業の合計予算額が前年度より9億5千万円増、9.2%増。

- ・障害福祉サービス等 5億9千万円増、9.2%増。
- ・地域生活支援事業等 前年度並み。
- ・手当・医療費助成 前年度並み。
- ・障害児通所給付事業 3億7千万円増、17.6%増。
- ・その他 前年度並み。

増額の要因：障害者数・サービス利用者数の増加。

暮らしの場の確保について

地域生活を支えるグループホームへ、2つの助成を行っている。今年度も引き続き支援を行う。
昨年度の実績：市内市外のグループホーム入居者258人に対し約4,600万円の家賃助成。
53法人55事業所へ約3,800万円の運営補助を行った。

近年のグループホーム数

令和3年4月	23か所	重度の方のグループホームが少ないことは承知している。 市川市自立支援協議会を通じて課題の整理をし、対策を投じていきたい。
令和4年4月	26か所	
令和5年4月	34か所	

行動障害の方への適切な支援について

受け入れ先の拡大：昨年度、強度行動障害の方を支援する障害者支援施設3事業者に対し約700万円の運営費補助を行った。引き続き今年度も補助を行う。
相談支援専門員のノウハウの拡大・千葉県の支援システムの参加：今後に繋いでいきたい。

2. こども部より、施策（知的障害関係）についての説明（約15分）

予算 発達支援課、こども発達センター費合計予算前年度並み。

- ・こども発達相談室事業 前年度並み。
- ・あおぞらキッズ事業 7.1%増。バスの置き去り防止装置設置。
- ・おひさまキッズ事業 6.9%減。

今年度の取り組みについて

こども発達相談室：発達に心配なお子さんに対して専門の職員が外来にて個別相談とグループ療育を実施。昨年度の利用者実績約1,500人。コロナ禍で減少したが、年々増加傾向。病類別にみると、知的の遅れがない発達障害が半数を占めている。

あおぞらキッズ・おひさまキッズ：身辺自立に向けての支援の他、プール療育やリズム遊び、お楽しみ会、クリスマス会など行う。保護者へは、子育てにおける困りごとの相談に応じ、保護者のニーズに合わせた研修内容を取り入れ、支援の充実を図ります。

3. 親の会より、報告、要望、質問等 (約50分)

① こども部関係

- ・放課後デイの充実（職員不足、定着が不安定）、放課後等デイサービスの在り方について、行政は事業所にどのように指導されているのですか？
- ・相談支援専門員不足と卒業後のつながりについて
- ・こども発達センターの役割、例えば、不登校児への支援・居場所対策は？
- ・文科省推奨【家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト】が市川市ではどのようなになっているのか？

<学齢の保護者の方々からの最近の相談の内容をもとに発言した概要>

幼児期には順調に過ごしてきたが、支援学級への行き渡りがある。どうしたら学校になじめるようになり子どもに合った教育を受けることができるのか？療育の助言や手助けは受けられるのか？こどもの将来を考えてとても悩んでいる。

文科省推奨【家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト】があると聞いているが、3者が席についての「相談の場」について、市川ではどうなっているのか？担任の先生と保護者間だけではなかなか解決が難しい問題も、福祉関係者（例えば相談支援専門員）に加わって頂き話し合いができることが望ましいのではないかと。その中で、こども発達支援センターの役割は？

こどもは、慣れている場であれば母子分離が可能なので、登校できない日中も放課後等デイサービス等の居場所対策を講じていただきたい。ただ、近年、軽度の知的障害＋発達障害の子が増えていること、支援学級に在籍しても不登校になられる子が増えているとの声を聞く。民間のフリースクールは、知的障害＋自閉症の子にとって、安心して居られて学べることを望むのはむしろかしいと思う。放課後デイサービスが、多様なニーズに対応でき、子にとって適切な居場所となるよう、市が牽引してくれることを強く願う。

加えて、市川市作成の障害児通所支援事業所一覧はとても有益です。今後とも定期的に更新をお願いしたい。

児童の相談支援専門員が特に不足している上、高等部卒業後に次の相談支援専門員さんへ繋げられるかも不安です。相談支援専門員不足を是非とも解決していただきたい。

② 福祉部関係

・暮らしに関すること

ア. 就労している息子の将来の暮らしについて思うこと

・息子は40代、区分2。そろそろ親亡き後の事を考えなければならない時期に来たと
思い、昨年、市川市地域生活支援拠点等に登録、障害福祉サービス受給者証も申請。
・息子は、生活面(洗濯、調理、伝言等)は不十分ながら自立、金銭面は支援が必要。
・グループホームのことは知らないので、体験をすることを、息子は承諾した。ただ、
休みが平日、職場が遠く朝が早いこと等あり、まだ行えず、今年中に宿泊体験を予定。
・新しい形でのグループホーム、【アパート、ワンルームタイプ】【ひと部屋が個別性の
高いタイプ】も様子を聞きたい。一人で住みながら、時々支援を受けられるような仕組
みのグループホームが増えていって欲しいと思っている。
・けれども、一番の望みは、本人、親共に今の場所で生活できること。それが可能にな
るような支援の手が、市川でも増えていくことは出来ないのか？ たとえば、居宅介護
のヘルパーさん、不安な時や困った時に相談できる人、金銭管理の手伝いをしてくれる
人、などが必要と思う。グループホームだけでなく、ひとり暮らしを可能にできる仕組
みと人材にも、是非とも、力添えをお願いします。

イ. ショートステイに助けられたけれど

短期入所が増えたことは大変助かっているが、それも親が頑張れるうち。親なき後には
グループホームが必須なのです。

※法人の通所利用者優先であるとか、利用者の特性（行動障害や医療的ケ
アが必須など）によっては受けてくれない等の声を聴く。行政の指導は？

・息子は54歳。障害があると解った3歳からマザースホームに通い、現在まで、日中
どこにも通うところが無い、などということなく過ごしている。
・長い年月の中で不安を感じたのは養護学校高等部卒業後の通所の場が無かったこと。
親の会で空き家を探し、職員を探し、5人の方が通い、同時に市の援助により、毎年小
規模作業所を開所することが出来、のちに法人いちばん星運営に移行。親の会で一路
会も設立し、市内の知的障害者は希望するところに通っている。感謝している。
・安心感は束の間で、親の高齢化が進んでいる。「ショートステイ」が有ったらまだ乗
り切れると思う人が増え、私もその一人でした。3年前、私は不整脈が発生し、スーパ
ーから緊急入院をした。この時は咲楽苑にショートステイが開所されていたので、「今
晩から泊めます」とのお返事をいただき、息子のことは何の心配もなく入院生活に入
れた。1か月近くで退院し、翌日迎えに行ったが、「お母さん、退院したばかりですよ
ね、まだ返せませんよ」と職員さんに説得され、一人トボトボと帰宅。寂しいやら、心
配してくださる言葉がうれしかったり。私の回復までショートは続いた。今の私と息
子の暮らしはショートステイが有ったのことでと思っている。
・でも、またこんな事態が起きた時は息子を連れ帰ることはできないでしょう。その時
のためにもグループホームは増えて欲しい。人手が無いと聞いていますが、何とかお
考えいただいて、私たちの願いが叶いますように。よろしくをお願いします。

ウ. 8050 問題（すでに 9060 問題へ）

老障介護が叫ばれて久しい。8050 問題・9060 問題といわれている。それに対しての市の具体的な取り組みを知りたい。なかでも最も逼迫している課題は住まいの場であり、その一つとしてGHの不足がある、それに対する市の取り組みを具体的に知りたい。

（GH問題を解決するために、市と民間が一緒のテーブルにつくことを前からずっと要望しているが、まったく実現していない）

※GH設立の形態にオーナーリース式がある。固定資産税への補助は？

●国が、これからの福祉の目標は「地域であたりまえに暮らすこと」と打ち出した時、市川市も親の会も、他の地域よりずっと早くその理念を正しいと位置づけ活動してきた。市川市はその実現のため、どんな重い障害があっても市川で暮らせるようにと、地域作業所への運営費補助、生活ホームの家賃助成、レスパイト補助金、など、他の地域に先駆けて市独自の補助を作り出した歴史がある。

●今、8050問題が叫ばれている。地域を信じて、地域で暮らし続けている家族の数は、多分、どの地域より市川は多いと思う。ですから多分、どの地域より深刻！老障介護・8050問題について、市川市の具体的な対策を知りたいです。

●8050問題の最たるものは、住まいの場の不足。昨年から、有志の事業所や人たちによるグループホームに関するプロジェクト「ソナエプロジェクト」が開始。まずは、重度の方が通う生活介護事業所を対象に7040以上の家庭へのグループホームのニーズ調査から始めた。家族へのアンケートを通所事業所を通して行い、その人を担当する支援者からみた状況も記入できるものなので、かなり正確なニーズ調査になっている。結果、市内の老障介護の家族は110名を超えているという。若くても、緊急事態が発生した家族、強い行動障害等で介護が無理になった家族もそれに加わる数となる。つまり、重度、高齢の知的障害者を受け止められるグループホームが、まったなし、なのです。この危機感について、この部長を囲む会で、今までも何度も何度もお伝えてしてきた。でも、市としての具体的な取り組みはこれまでなかったと思う。ソナエプロジェクトさえも一緒に活動は拒否されたと聞く。ソナエプロジェクトの活動を応援し、一緒に課題解決を目指してください。

●株式会社等によるグループホームの増設の状況を、今、学んでいて、その増設も期待はしている。が、本当に重度の人、強度行動障害の人の受け入れは少ない。ですから、どうしても社会福祉法人がGHを作っていくことを期待する。松香園・梨香園などを運営する大きな法人は、市内に作る力が十分あるのに、「作らない」とはっきり表明しているそうです。一路会・いちばん星などの特定の法人が頑張るだけではなく、市内の社会福祉法人などが皆、それぞれ努力をしてほしい、そのためには市の協力が必要だとずっとこの会でも言ってきたが、そのとば口にも立てていない！！

●私自身、8050問題のまっただ中。障害の重い娘が、どこで暮らし、楽しそうか、だいぶ衰えてきている体調はどうか、医療はどう提供されているか、日々うれしいことはあるか、などを見届けたいと切に思っている。親が何かあったときは、いずれ、どこかで暮らすことになることはよくわかっている。でも、私はどうしても見届けたいです。せめてここまで、頑張ってきたのだから、せめてそのくらいは、見届けたい。どうぞ、官民一体となって、この問題を一緒に考えて、知恵を出し合ってください。

・行動障害のある方への適切な支援について

ア.市内のどの事業所でも受けられること

イ.相談支援専門員にそのノウハウが必須である

ウ.「千葉県重度の強度行動障害のある方への支援システムの構築」が始まっている。市としてのお考えは？ 県に頼らず、市川市で受け止める仕組みを構築できているのか？

知的障がいをもつ自閉症、30代娘の母です。

・小学校へ入学し学年が進み、落ち着いてきたと思った矢先に問題行動を起こすということは多々ある。それは、「こだわり」等が強まったことや、過去の嫌だった記憶を思い出すということもある。問題が大きくなるうちに、幼いころを知っている子ども発達支援センターには18歳まで支援体制を教育機関・医療機関と連携を取りながら支えて欲しいです。ここはこども部へのお願いです。

・娘の場合、高等部入学後と卒業して半年後に不安定になった。入学後の頃は私に対しての暴力と家電や食器を床に叩きつけるなどの行動がでて、幼い頃に通った療育相談センターに相談すると医療的ケアが必要と言われ、10年振りに小児科医を訪れ安定剤処方となった。卒業後の問題行動は他害という形で現れ（女の子の髪を引っ張ってしまう）、当時の「がじゅまる」の職員、移動支援先の施設長、通所先の職員、そして医療機関へ相談をし、「娘のそばに大人がいることで回避できる」という結論に至り、朝は小学校の登校時間を過ぎてから一人で通所し、帰りは下校時間と重なるため途中まで職員の方が送ってくれることにした。この社会は自閉症の人達向けにはなっていません。それを、私たちの社会に慣れろ！と押し付けてもうまくいきません。やはり専門家による支援や環境づくりが必要になるのです。チームによる支援が必要で、その中心になるのが相談支援専門員になるのでしょうか？

・県では「強度行動障害のある方の支援者に対する研修事業」いわゆる16人研修が今年度も行われるようです。熱意・愛情だけでなく、より専門性が必要、知識と支援スキルが必要と考えているからです。市川市でも行動障がいのある方を支える研修会を行い、職員の方が研修会に出席しやすい環境を整えて欲しいとも思う。

・娘には娘らしい暮らしを親以外の支援者と共に過ごしてほしいと願います。それは、娘だけではなく全てお子さんに言えること。問題行動の中に隠されたもの、それは過敏さからくるものなのか？過去の嫌な思い出なのか？コミュニケーション不足からくるものなのか？などを考え、記録し、工夫してくれる支援者たちと共に、豊かな暮らしを送って欲しいと願っている。

その他の発言

<交通費助成増額について>

バス・電車を乗り継ぐことで通所の交通費がかかり、自己負担額が大きくなってしまふ。親亡きあとのことを考えるとこの負担額は不安。また、通所中のトラブルを避ける為に親が付き添っており、同じように付き添って通所しているご家庭があると思う。全額から1/2の助成となっている自治体が多いが、市川市は1/3の助成です。他市に近い率の助成金をいただけたら、助かります。

※以前は、市川市も1/2の補助だった。

<市庁舎内販売について>

折角の市庁舎内販売、場所を検討し、市民の方の目に留まる場所をお願いします。

③ 支援者の立場から（一路会、いちばん星）の発言

ソナエプロジェクトの調査は、2022年11月に実施。

新しいグループホームが立ち上がる、という情報が入ったら、「ソナエプロジェクト」調査で、このような状態（重度、高齢）の方がこれだけ待ってる、と運営者に伝え、重度の方の受け入れ体制（スプリンクラー設置・人員配置）を働き掛ける。体験も何度も行い、色んな工夫をしながら、本人も家族も満足いくように、親に代わるソナエをしていきたい。

市からの回答では、グループホームが年々増えているとあったが、数が増えれば全部のニーズが解消するものではないと考えている。ひとりひとりに寄り添った支援が必要であることをご理解いただきたい。

調査結果にある支援者評価の1年以内にグループホームへの入居が必要な方々が男女27名いるが、調査実施から既に7カ月過ぎていて、早急に取り組まなければいけない課題と感じている。

・今すぐに、グループホームを立ち上げることは、いちばん星も一路会も出来ない。株式会社や他の事業体がグループホームの計画を立ててくれているので、その応援をするのがひとつの方法であると思っている。

・とても嬉しかった話をお伝えする。 咲楽苑のショートステイに行動障害の強い学齢の方が利用していた。その方が卒業になったが、通所先として手を上げられなかった。後に公立事業所で週1回半日通所していると聞いた。その後、施設長からその方を週3日だったか？受け入れられるようになった。CASから助言を受け、学び直し、環境を整え、その方の支援を積み上げてきた。さらに、こちらに力量がない為、週5日通所できず、申し訳ないとも言っていた。 行動障害は、職員ひとりでは解決できることではない。ひとりで抱え込まない。ひとつの事業所だけで支援しない、色んな仕組みを共有し、活用し、積み上げて、支援し続けていくことでしかない。

・もうひとつ、心が震えた話。

就労系に通所していた利用者さんが、高齢になり「通所先を卒業します。」と言い、今は介護保険の事業所に通っている。たぶん、年齢を重ね、今まで出来ていたことが出来なくなり、イライラする様子を職員や相談支援専門員が見て考えてくれたのかもしれないが、最終的に本人が決断したことに驚いた。この方は、話せるが、話せない方も同じ気持ちを持つかもしれない。支援の質を上げて目の前の方に寄り添っていくことを決意した。

4. 市側からのご回答・意見交換の時間（約30分）

市からの回答

・こども部より

放課後等デイサービスについて

自立支援協議会にこども部会があり、その中に障害児支援連絡会がある。放課後等デイサービス事業所と児童発達支援事業所と意見交換・情報共有をしている。他の事業所職員同士で情報

共有し、実際の支援に活かせるようになっている。質の高い支援の課題についてアンケートを取ったところ人材育成が一番多かった。予算、他の事業所との連携の順。ガイドラインもある。

相談支援専門員について

相談支援専門員の不足は、認識している。新規事業所開設の際は、相談支援専門員の検討をお願いしている。卒後の繋ぎについては、障害児相談支援事業所は18歳までですので、確実に成人事業所への引継ぎをできるようにしている。

こども発達センターの役割

不登校児の支援は、教育センターである。家庭訪問での相談やほっとホッと訪問相談で対応している。公立小・中学校には、カウンセラーが配置され、相談が受けられる。

居場所としては、教育センター内に適応指導教室フレンドルーム市川がある。

こども発達センター、ことばの教室での相談の多くは、集団に関する事。教育センターに繋いでいる。

トライアングルプロジェクト

スマイルプランは、学校で引き継ぎ、学校内での情報共有。事業所と学校の連携は、ホームページで呼びかけている。今後も働きかけていきたい。発達支援課は、児童発達システムを導入し、希望者には幼児期の支援記録を学校に繋げることもでき、スマイルプランにも繋がられる。切れ目のない支援を続けたい。

・福祉部より

市川市地域生活支援拠点事業

令和2年11月より居住支援のための体制としてスタートしている。事前登録制で現在144人登録と増加。咲楽苑、梨香園、サンワークにコーディネーター役を委託している。今後は、体験の場の確保、地域の連携体制作りなど、面的整備を進めていきたい。

住まいの場

市内のグループホームは、33か所（住居数 100）有る。年々増加傾向にあるが、重度の方を受け入れてくれる所が少ない。県と連携して必要な支援を検討していく。

軽度の方の暮らしの課題

成年後見制度を活用する方法があるが、手続きが煩雑、経済的な負担が大きいことなどから躊躇している方が多い。今年度(令和5年度)から中核機関を社会福祉協議会に共同設置し、市川市後見支援センターという名称で相談（財産管理や日常生活の契約において不利益を被ったりした際等）を受けている。

短期入所の事業所が、法人の通所利用者優先や特性による受け入れ拒否などがある

行動障害の方は、環境面や人員の問題で支援を断られることが少なくない。市として事業所に対して行政指導が出来る立場では無いが、県の相談窓口の紹介し、相談に応じる。

行動障害の方の適切な支援

支援者に対する県の研修(16人研修)や、CASからの助言・個別支援研修を実施。活用の周知・啓発を進めていきたい。千葉県重度行動障害のある方への支援システム構築(令和2年11月設置)に、本市としては、活用に至っていない。

今年(令和5年)5月現在、重度の行動障害の方87名。そのうち在宅の方68名。

市川市独自の行動障害の仕組みについては、受け入れ可能な入所施設が2か所、グループホームが希少な状況であることから、難しい。市だけでなく、県の暮らしの場支援会議の活用を進めていきたい。

交通費助成について 調査させてください。

市庁舎販売について 検討させてください。

・支援者より 独自の加算の検討

行動障害のある方を送迎ではなく支援したら、独自の加算をしている市町村があった。

加算があったら、行動障害のある方を社会福祉法人だけでなく、他の事業体も受け入れたりするのではないかな？ 加算があったら、職員も苦しいけれど、頑張ろうという気持ちになるのではないかな？ そう思うと、「独自の加算」という行政の応援の仕方を検討して欲しい。

※親の会より： 加算は、入所だけでなく、地域生活の場であるグループホームや通所へが、必須です。

・親の会より ソナエプロジェクトについて

ソナエプロジェクトは、GHが県の管轄だからと県にお任せでなく、市川市に暮らす問題として市も共に考えて欲しい。切に願う。

事業展開をしてくれる支援者と共に市が進めて欲しい。

田上会長挨拶

私達が我が子の為に市にどういう事をお願いしたいか、を聞いていただきありがとうございました。

地域移行になり、生まれ育った所で暮らすことは有難いが、国の報酬単価では厳しい面が多い。

グループホームや相談支援専門員などが、特にそうなので、人材不足が止まらない。

市川市が中核市になったら、変わるのか？

我が子達が市川で過ごせるような施策をお願いしたい。

（議事録： 小澤、村山）